



くるーばー



県士会における「三部体制」について

石川県精神保健福祉士会 広報・調査研究部長
堂前 大輔（金沢保護観察所）

平成22年度の事業がスタートして早4か月が経ち、既に総会・講演会、いくつかの研修会等を無事に終えることができました。多くの会員の皆様にご参加頂き、ありがとうございます。

当県士会の「三部体制」は、今年度で4年目を迎えます。「総務部」では、当会全体の事業の企画を立案し、また三部体制の基盤整備や調整を図り、日本協会や各関係機関との連携等を行ってきました。「教育・研修部」では、精神保健福祉士としての専門的視点に基づく実践力を高めることを目標として、これまで「ネットワーク作り」「ネットワークの強化」をテーマに研修機会を設定してきました。今年度は「ネットワークの定着」をテーマとし、会員の皆様の資質向上に寄与できればと考えております。そして、当「広報・調査研究部」では、これまで「会報誌」を発行し、「会員調査」を実施してきました。今年度は、新たに「ホームページ」を会員の皆様に公開し、当部会における活動の3本柱（会報誌・会員調査・ホームページ）を確立させることができました。

これら「三部体制」における活動では、多くの若い会員の方に「委員」として参画して頂いており、まさに「手作り」の活動・運営を行ってまいりました。委員の皆様には、日常の本来業務を終了後、夜間帯で行われる部会の会議等で、事業計画に沿った各種活動の実施に向け、様々な意見を積極的に出し合って頂く中で、企画や運営面に携わって頂いております。部会での活動を通し、このような若い会員の力が当県士会の活動の基盤となっていることを心強く感じております。委員の皆様、本当にありがとうございます。

そして、今後も当会の「手作り」の活動を、ますます充実・発展させていけるよう、会員の皆様のお知恵やご意見等を頂ければと存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

TOPIX

医王ヶ丘病院 棚瀬 好康

社団法人日本精神保健福祉士協会は、構成員に向けて情報を発信しています。その1つがメールによる情報提供です。送信の了解を頂いている石川県構成員の皆様へ代議員として日本協会HP掲載情報をお送りしています。

最近、障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会の資料や動画をはじめとして、高齢社会白書、自殺の概要資料、全精社協補助金不正受給事件に関する見解などと共に、全国14地裁の障害者自立支援法訴訟での和解、生活保護、ホームレス、うつ病に係わる報道記事など多様な精神保健福祉関連情報を送信しています。

中でも、障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会の資料は、障害各分野の団体が集まって話し合い、現行の障害者自立支援法の早急に対応すべき課題まとめています。障害者権利条約締結に向けた法整備及び障がい者総合福祉法（仮称）の制定に向けた取り組みの内容も確認できます。

精神保健福祉士として日常実践の中で、新しい情報は当事者の生活に直接関係することがあります。また、障害者施策の作成経過は当事者の今後の自己実現に大きく影響します。膨大な情報は多くの仲間（及び当事者等）と共有することでより多くを得ることができ、より有用なものになるのではないのでしょうか。

平成22年度 石川県精神保健福祉士会総会

平成22年6月19日（土）石川県精神保健福祉士会総会時の講演について

「生活者の支援～高齢者のかかわりから～」と題した佐々木勝則さんのご講演では、①利用者や患者さんが入院や入所によって失うものや失うことをPSWはどのように考えているか？ ②施設や病院の密室性を自覚し、その改善に努めてるか？ ③利用者本人が一人の人として、何を思い、どう生きたいと思っているのか、本人にとって必要な時間をかけ、納得し、生きる意欲を持てる過程にきちんとかかわれているのか？等、PSWの視点や姿勢からさまざまな疑問が投げかけられました。

今回の講演を受け、自分自身の実践を振り返るとともに、あたり前に暮らすことの中で権利擁護を意識した生活支援のあり方を再認識することができました。佐々木さん、ありがとうございました。

石川県精神保健福祉士会 事務局長 喜多 昌恵（地域活動支援センターかが）

参加者からの
感想を頂きました。

平成22年6月19日（土）に石川県精神保健福祉士会総会に参加しました。

当日は桜井の里福祉会の佐々木勝則先生により「生活者の視点～高齢者のかかわりから～」のテーマでご講演いただきました。

佐々木先生はご講義のなかで、生活主体者としてではなく保護対象者として利用者を捉えていないか？と問いかけられました。本人が出来ることを支援者が行ってしまうなど、日頃の私たちのかかわりのなかで気づかぬうちに「善意の権利侵害」になってしまうことを改めて確認しました。

本研修を通じて、時に私たちのかかわりが権利侵害を起こしてしまうことを自覚し、一つ一つのかかわりを丁寧に点検することの重要性を学びました。また、本人や家族にとっての「その人らしい生活」は何であるのか？を共に考える過程の大切さと、こちらが感じたことを相手に伝えながら相互主体的な関係性を築いていくことの重要性を改めて確認することが出来ました。

佐々木先生、貴重なご講演ありがとうございました。

矢田野ファクトリー 小町 健

佐々木勝則先生の講演会は、「自分のかかわっていますか？」の質問から始まりました。ソーシャルワークと生活場面は切り離すことができないもの、生活全体の中でサービスの有効性やリスクと一緒に丁寧に考え進めるプロセスの重要性についてお聞きすることができました。また、生活者として地域で暮らすこと、人が集まる場や地域資源を協働して作った実践についても聞かせていただき、ソーシャルワーカーが地域で求められている役割についても学ぶ機会になりました。

生活環境には変化があり、一人ひとりの生活スタイルがあります。その中で何が変わり、何が変わっていないのかの認識をもつこと、直接クライアント本人と話をし選択していけるようなかかわり（選べる工夫）をもつことの大切さを改めて実感しました。自己決定やかかわりの尊重についてお聞きすることができ、改めて学び感じるがたくさんありました。人が人として生活することを支援するソーシャルワーカーとしての考えや意識を深め、自分の現状を振り返る機会をいただきました。

「誰に、どこに立ち位置をもっているのか」、自覚だけでなく一つひとつを点検していけるPSWでありたいと、新たな気持ちになれた講演会でした。今後の実践に活かしていきたいと思います。

松原病院 明正 亜矢子

日本精神保健福祉士協会 全国大会（沖縄） 報告



私たちの問題意識

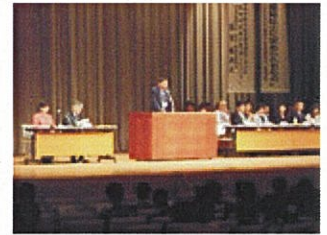
龍谷大学大学院社会学研究科 吉岡 夏紀

大会の合間に、沖縄の知り合いが「普天間基地」に連れて行ってくれた。高台から見下ろすと、基地の周りには民家が沿うようにして建っている。目を凝らすと、屋根に黄色い旗がたなびいている家が見える。尋ねると、それは基地反対の意思表示なのだという。一方、反対派の波におされ賛成派の人々は声すらあげられないのだという話を聞き、沖縄の問題を遠ざけている自分を情けなく思った。

今回、大会総会において「認定成年後見人ネットワーク クローバー」についての問題提起があった。PSWである私たちが後見人として当事者の望まない入院に同意すること・・・PSWであれば違和感を持つはずである。では何故、私は今まで「クローバー」について問題意識を持たなかったのか。それは「遠くでおこっている自分には関係ないこと」という気持ちではないだろうか。私は再び自分を情けなく思ったのである。

もし自分が成年後見人を受任することになったらどうだろう？当事者と共に在り、共に歩むことができるだろうか？私たち一人ひとりがソーシャルワーカーの持つ権威性に無自覚であることは、当事者と共に歩むPSWという役割の揺らぎに繋がり、結局は、当事者との信頼関係に基づく協働を危うくする気がしてならない。

まずは、こうした議論を自分の身近なことにひきつけて、問題意識をもつことが大切だと感じた、沖縄大会であった。



第4回 社会福祉法人 金沢市民生協会 ときわ病院グループ

PSW 職場紹介リレー



長田

ときわ病院 (病床数 268 床)

Tel 076-248-5221 (代)

生活支援課

長田 飯田 末廣 喜多



末廣



飯田

デイケアきうい

(大規模デイケア)



喜多



西田

地域社会復帰施設
ときわ

地域活動支援センター・相談支援事業所
ののいち

076-248-6565 西田 大崎

福祉ホーム B 型すまいる 定員 20 名

076-248-6646 ^{ひら}平



大崎



ひら平

グループホーム
メゾン・ド・つばき

定員 7 名

7名のPSWが定期的に
ワークス勉強会を開いています。
つながりを大切に、日々専門性の
向上に努め、一人ひとりの
想いに寄り添う支援を
目指しています。

救護施設

三谷の里ときわ苑

076-257-4946

次回は・・・公立能登総合病院 精神センターです。

ホームページアドレス
<http://www.tokiwahp.or.jp>



石川県精神保健福祉士会 (日本協会) の入会の案内

①入会に関するメッセージ

日常の実践の中で、かわりに迷いを感じたり、これでよかったのかと思ったりすることは、誰にでもあることだと思います。また、実践の中で明らかになる課題で、単独の機関や個人で解決することが難しいこともあります。所属機関を越えて、同じ専門職同士が仲間として横のつながりを持つことで、精神保健福祉士個人では解決できない課題・問題に取り組んでいく力を持つこともできると考えます。石川県精神保健福祉士会には、日ごろの悩みや課題を共有し、一緒に考えることができる仲間がいます。あなたの入会を心よりお待ちしております。

②会費納入のお願い (活動費について)

石川県精神保健福祉士会の活動費は、会員のみなさん方の会費や財団法人日本精神保健福祉士協会 (以下「日本協会」) からの「支部活動協力費」などによって賄われています。実はこの「支部活動協力費」とは、会員 (構成員) のみなさんが日本協会に支払う会費の一部が、石川県精神保健福祉士会に流れてくるシステムになっています。ご存知でしたか?

つまり、会員 (構成員) のみなさんの日本協会会費が未納の場合は、同時に「支部活動協力費」が減額されてしまうような仕組みになっているのです。どうぞご理解の上、12月末日までには、日本協会への会費納入にご協力いただきますようお願いいたします。

また2009年度より、日本協会の会費の預金口座振替システム (ワイドネット) が導入されています。このシステムに登録されますと、毎年6月27日に指定の預金口座から会費を引き落としとして納入することができます。「振り込みを忘れる」「郵便局に行く時間がない」という悩みも解消されます。ぜひご利用ください。

編集後記

第4号も多くの方々に協力をいただいて発行することができました。また、当会のホームページ (<http://ishikawa-psw.main.jp>) も開設の運びとなりました。是非チェックしてくださいね! どちらも皆さんにとって、より身近なものになるよう、様々なご意見や感想をお聞かせください。

夏日が続く毎日ですが、「楽」に「癒」も加えて、心身ともに疲れを蓄積しないように過ごしていきましょう。次号もまたお楽しみに!! (ゆ)